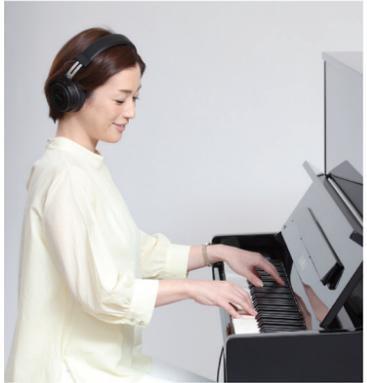


ものづくり年表

- 平成元年(1989) 本田宗一郎が米国で自動車殿堂入り
- 平成5年(1993) ヤマハ、カワイが消音ピアノ発売開始
- 平成6年(1994) 山田卓司がテレビチャンピオンの全国プロモデラー王選手権で優勝
- 平成14年(2002) 浜松ホトニクスの光電子増倍管がノーベル賞受賞に貢献
- 平成18年(2006) 自動キャップ梱包機開発などでガーベラ産出額が全国1位
- 平成20年(2008) 第26回宇宙技術および科学の国際シンポジウムを開催
- 平成21年(2009) 電子式テレビジョン開発がIEEEマイルストーンに認定
- スズキ歴史館がオープン
- 平成22年(2010) 本田宗一郎ものづくり伝承館がオープン
- 平成23年(2011) ヤマハがTOP100グローバルイノベーターを受賞(H26、27、28連続受賞)
- 平成24年(2012) 浜松シオラマファクトリーがオープン
- 浜松ものづくりマイスター制度を創設
- 平成25年(2013) 浜松市中学生ものづくり大会開催
- 平成26年(2014) 天野浩教授が青色LED開発でノーベル物理学賞を受賞
- 平成27年(2015) 浜松ホトニクスの光電子増倍管がノーベル賞受賞に再び貢献
- 静岡県IoT活用研究会設立
- 平成29年(2017) ホンダ・スーパーカブ・シリーズが世界生産累計1億台を達成
- 平成30年(2018) スズキの四輪車生産が2年連続で過去最高を更新
- ハイビジョン画質の16倍の画素をもつ8Kテレビが発売
- ヤマハイノバージョンロードオープン
- F.C.C TSR HONDA Franceがル・マン24時間レースで日本チーム初の優勝
- スズキの「スイフト」が国内外でカーオブザイヤー3世代連続で受賞

平成5年(1993)
ヤマハ、カワイが消音ピアノ発売開始

楽器の常識を覆す 消音ピアノ、世界的ヒットに



写真提供: 関河合楽器製作所

本来の音を出す楽器とは、逆の発想から生まれた「楽器の音を消す」商品に世界が驚愕。平成5年ヤマハとカワイが世界で初めて消音ピアノを発売した。ピアノの一般家庭への普及が進む一方、騒音問題がクローズアップされる。対応に迫られた両メーカーは、音を消すことに挑戦。アコースティックピアノの繊細なタッチ感や音色はそのままに、極限まで音の出ないピアノを開発・発売した。この画期的な製品により、防音対策が容易になり、他人に気を使うことなく練習ができることで、ピアノ初心者的心もつかんだ。今や、消音ピアノは世界の楽器文化の中で重要な地位を占めるようになっていく。

ヤマハイノバージョンロード 浜松市中区中沢町10-1 MAP 15
https://www.yamaha.com/ja/about/innovation/

独自のデザインと安定した走行性能を誇る、ホンダの二輪車スーパーカブシリーズ。今や世界中で「気軽な足」として愛用されている。初代モデルは、創業者の本田宗一郎が浜松で開発し、昭和33年に量産が始まったスーパーカブC100。月日は流れ、平成29年、スーパーカブシリーズは世界生産累計1億台突破という前人未踏の記録を打ち立て、現在までに延べ160カ国以上で販売されている。今、ホンダ発祥の地 浜松は、トランスミッションの基幹工場、船外機の開発・生産拠点として日本のものづくりを支えている。

本田宗一郎ものづくり伝承館
浜松市天竜区二俣町二俣1112
MAP 16
http://www.honda-densyokan.com/

平成30年(2018)
スズキ「スイフト」がICOTYとRJCで3世代連続受賞

激戦区インドでも 自動車市場を 席卷



スズキ歴史館
浜松市南区増楽町1301 MAP 17
https://www.suzuki-rekishikan.jp/

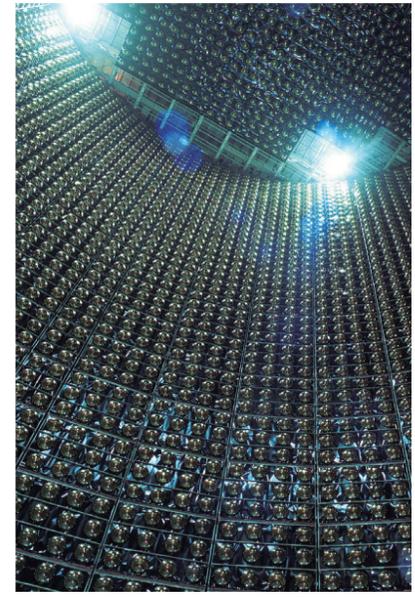
経済成長が著しいインド。中国に次ぐ世界2位の人口を有し、その約半数は25歳以下であり、世界中の企業が次なる巨大市場として注目している。そんなインドで圧倒的なシェアを誇るのがスズキである。平成30年には、人気車種「スイフト」がインドで最も権威ある自動車賞「ICOTY(インド版カーオブザイヤー)」を受賞。初代モデル(18年)、2代目モデル(24年)に続く、3世代連続の受賞となった唯一の車種だ。「スイフト」は、日本でも3世代連続で「RJCカーオブザイヤー」を受賞するなど、国内外の車好きに愛され続けている。

伝統×革新で 驚愕のロング セラーを記録

平成29年(2017)
ホンダ・スーパーカブ・シリーズが世界生産累計1億台を達成



平成14年、奥飛騨の山中にある観測装置「カミオカンデ」における素粒子ニュートリノの観測でノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊。この受賞を契機に世界中から脚光を浴びた企業が、光電子増倍管を開発し、世界シェアトップを誇る浜松ホトニクスだ。未知未踏領域が多い「光」について独自の研究・製品作りを重ねてきた。その結果、世界屈指の光技術を有する企業に成長し、いまや世界中の企業や研究者から指名されている。平成25年にはヒッグス粒子の存在を確認したことで、フランスワ・アングレールとヒーター・ヒッグスがノーベル物理学賞を受賞。この実験施設のCERN(欧州原子核研究機構)においても、浜松ホトニクスの



浜松科学館
(2019年7月リニューアルオープン)
※スーパーカミオカンデ関連展示あり
浜松市中区北寺島町256-3 MAP 12
http://www.hamamatsu-kagakukan.jp/

卓越した製品が大きな役割を担っている。平成27年にはニュートリノに質量があることを発見した梶田隆章がノーベル物理学賞を受賞。平成の時代は、浜松がものづくりのまちであることを国内外に改めて知らしめるとともに、浜松が光の先端都市を目指していることも認識させることになった。浜松の光・電子技術の礎は、高柳健次郎がブ

ラウン管に「イ」の字を映し出したこと。この技術が世界で初めて成功したのは、大正から昭和へと改元された年。そこから平成、そして新しい時代へと脈々と受け継がれてきたのが、浜松の大学や企業が有する研究開発力であり、浜松のものづくり力といえる。今後ノーベル賞に直結するような新たな産業技術の創出が期待される。

テレビジョンの 父の功績、世界認定へ

平成21年(2009)
電子式テレビジョン開発がIEEEマイルストーンに認定

浜松ホトニクスの創業者の一人、堀内平八郎の師であった、静岡大学名誉教授の高柳健次郎。その功績は「テレビジョンの父」と称えられ、平成21年には電子式テレビジョンの開発がIEEEマイルストーンに認定された。今もなお静岡大学浜松キャンパスと浜松医科大学は、革新的な光・電子技術を生み出し続けている。平成最後に注目を集めた8Kテレビもその一つ。静岡大学と市内の大学発ベンチャー企業が共同開発した「超高精細の8Kの光センサー」がカメラに搭載されている。

※IEEEマイルストーン…アメリカの電気工学・電子工学技術学会「IEEE」が、電気・電子技術分野における歴史的偉業に対して認定。25年以上に渡って高く評価を受けてきた実績が必要。1983年に制定され、2018年までに全世界で193社が認定されており、浜松ホトニクスの光電子増倍管も認定されている。
静岡大学高柳記念未来技術創造館 浜松市中区城北3-5-1 MAP 14
https://www.shizuoka.ac.jp/tmh/

メイドインジャパンを牽引 浜松のものづくり

「やらまいか精神」で期待を超える技術・製品を生み出し続ける浜松。平成の時代も、メイドインジャパンの進化は加速し、今や世界を席巻している。

平成14年(2002)、平成27年(2015)
浜松ホトニクスの光電子増倍管がノーベル賞受賞に貢献

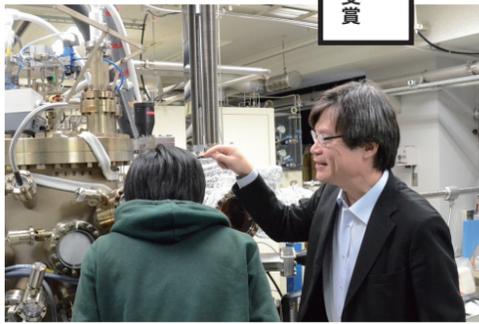
世界トップシェアの光センサー ノーベル賞の原動力に

世界の電力消費量 削減に貢献

平成26年(2014)
天野浩教授が青色LED開発でノーベル物理学賞を受賞

平成26年、世界初の青色LED(発光ダイオード)の開発に貢献したとして、浜松市出身の天野浩が、赤崎勇、中村修二と共に、ノーベル物理学賞を共同受賞。青色LEDは、高輝度で省電力の白色光源を可能にした技術であり、この発明によって、世界中で抱えるエネルギー問題の解消や地球温暖化防止などへの期待が高まっている。今後さらに効率化することで、照明はもとより情報処理や

交通・医療・農業などといった分野でもエネルギー消費量の大幅削減が期待される。30年には青色LEDを基盤とした省エネ半導体の実用化に見通しが付いたことも発表され、さらなる革新技術の確立と産業化が心待ちにされている。



浜松科学館(2019年7月リニューアルオープン)
※青色LED関連展示あり
浜松市中区北寺島町256-3 MAP 13
http://www.hamamatsu-kagakukan.jp/